

# 御用邸所在地友好都市協定

「友好のかけはし 明るい未来へ」

問合せ先 企画課秘書広報係 ☎22212

1月14日、須崎御用邸のある本市は、神奈川県葉山町、栃木県那須町と「御用邸所在地友好都市協定」を締結しました。かつて全国に15か所あった御用邸のうち現存するものは、「須崎御用邸」「葉山御用邸」「那須御用邸」の3か所のみとなっています。

今後、皇室の御静養地としてのつながりをきっかけとして生まれた友好の輪を活かし、防災・観光・教育などさまざまな分野で相互連携し、まちづくりを進めていきます。



次回4月号では、友好都市協定を締結した葉山町、那須町について紹介します。

## 締結式あいさつ紹介

下田市 松木正一郎市長

市制50周年の節目に、国内に現存する御用邸所在地である3つの市町が、自然豊かな環境、美しい景観を有する皇室の御静養地としての誇りを持ち、お互いに連携し、これからのまちづくりを進める協定を締結することは、下田市にとって明るい未来への幕開けになると確信しています。

葉山町 山梨崇仁町長

御用邸は一つのきっかけであり、土地の持つ魅力、そこに住む私たちの気持ちを将来につないでいくことが大事だと考えます。今後は、子どもたちにどんなまちをつなげられるか一緒に考えていき、スポーツや文化芸術の交流を深めて行きたいです。

那須町 平山幸宏町長

私たちは、御用邸とともに歴史を歩んできました。現存する御用邸は3か所のみとなり、選ばれた地域として誇らしく思います。今後は、3市町で手を取りあい支えあい、様々な交流を行い、新たな時代の幕開けとなることを期待します。

## 須崎御用邸

明治46年に設置された沼津御用邸が戦災により本邸焼失後、その代わりとなる御静養の適地として伊豆半島東海岸に新御用邸を取得すべく、用地調査を行っていたところ、下田町（現・下田市）須崎区の旧三井家所有地を含む一帯が、気候温暖、黒潮の海と自然林に囲まれた御用邸としてふさわしい条件を備えていたことから、昭和43年度に住友不動産、下田町須崎財産区及び民間から約38万3千㎡を購入し御用邸としました。

昭和44年10月に本邸の着工を行い、昭和46年10月に竣工し「須崎御用邸」と命名されました。須崎御用邸は、本邸、付属邸、その他関連施設を併設しています。

また、邸内にはプライベートトビーチの三井浜があり、御一家で散策や海水浴を楽しむられています。平成11年に御静養にいられた際には、紀宮さまが一年間大切に育てられた「やどかり」5匹を眞子さま佳子さまによって、再び下田の海へ放流されたこともありました。

## 葉山御用邸

3か所ある御用邸の中で明治27年から続く一番古い御用邸で、御用邸の裏手には、一色海岸と呼ばれる海水浴場があり、海洋生物の研究を熱心に行っていた昭和天皇の学術研究の場でした。

今もなお豊かな海が広がり、避暑や避寒で訪れる皇族方が散策を楽しまれていました。テレビなどで見かけたことのある風景は、小磯の鼻と呼ばれる一色海岸の岬当たりで見ることが出来ます。

## 那須御用邸

皇太子であった昭和天皇が那須を訪れ、山々と高原の美しい景観に感動され、夏の避暑地として大正15年に建設されました。

那須御用邸は約1200haと広大な敷地を有していましたが、平成23年に「那須の豊かな自然を維持しつつ、国民が自然に直接ふれあえる場として活用してはどうか」との現上皇陛下お考えを踏まえ、敷地の約半分が国立公園として公開されています。